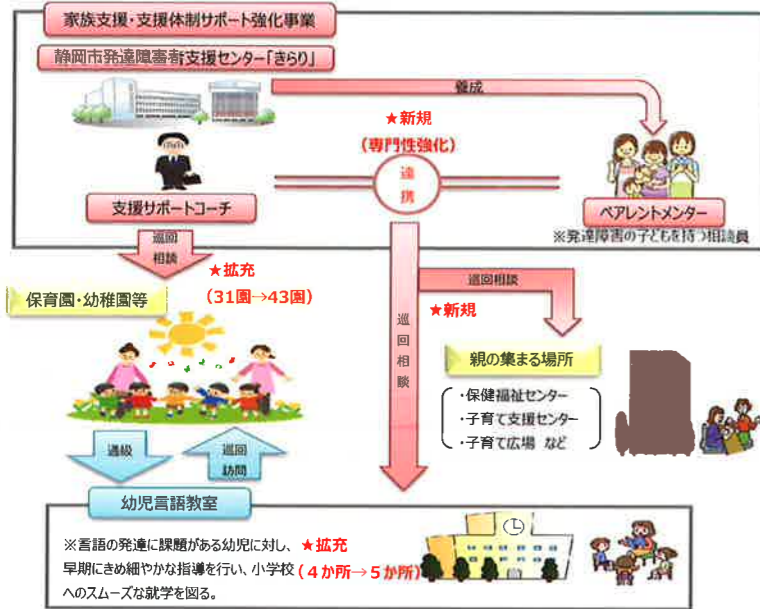


新規拡充の予算の一部を紹介します

1. キラッと♡すくすくプロジェクト

3,542万円 (前年度 281万円)



2. 不妊治療費の助成

1億4,581万円 (前年度 6,716万円)

目的 医療保険が適用されない配偶者間の不妊治療に必要な費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図る。

【対象者】 静岡市に住民登録がある、戸籍上の夫婦

【対象治療及び助成内容】

- 特定不妊治療 (体外受精、顕微授精)
 - ・治療1回につき上限15万円
 - ただし、治療開始から3回分までは上限20万円 **新規**
 - ※凍結胚移植等は、治療1回につき上限7.5万円
 - ・通算6回まで (年間回数制限なし)
 - ※40歳以上で治療開始の場合は、初年度3回、通算5回まで
 - ※平成25年度までに既に助成を受けている方は、平成27年度まで現行制度を引き続き適用
- 一般不妊治療 (人工授精) **新規**
 - ・上限6.3万円
 - ※対象年齢40歳未満、通算2年まで

事業概要

〔不妊治療費助成事業の拡充内容〕

- 妊娠・出産を希望する夫婦を対象とする不妊治療費の助成制度を拡充
- ①治療開始から3回分の申請に対する上限5万円の上乗せ
- ②所得制限を撤廃
- ③一般不妊治療(人工授精)に要する費用の助成制度を新たに創設

3. 「明るく、目立って、光る高齢者」交通安全推進事業 250万円 (新規)

高齢者に対する交通安全啓発事業をS型デイサービス等での交通安全教室で実施。
また、着用してもらうこと、着用してもらう人に配ることを目的に自発光式反射材を製作、配布する。



4. 森下小学校校舎改築事業 8,203万円 (新規)



今年度実施計画、27～28年度に北校舎解体、校舎建設し、29年度に南校舎の解体というスケジュールです。仮校舎を建てなくても良いように工事が進められます。3

月に行われた上下水道教育委員会におきまして、私は「森下小学校の校舎改築は、地域に愛される学校にしてほしい」と要望をさせていただきました。現在、学校、地域、PTAでワークショップなどを通じて、いろいろな視点で具体化が進んでいます。私も、地元の皆さんの声をしっかりと反映させてまいります。

消防団出初 まとい振り



発行▶自由民主党静岡市議会議員団 担当 畑田 響

ひびきレポート

みんなの
街の営業マン
です!

平成26年5月発行



お世話になっております。日頃から、私の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

昨年より静岡市議会議員として活動をさせていただき、一年が経過し、本年度から議会では経済消防委員会副委員長として、また自民党市議団では「環境にやさしい再生エネルギー」グループに所属しています。三保の松原などの地域資源を最大限に活用した観光と静岡の地場産業やものづくりの現場の声をしっかりとお届けし、経済の好循環に向けた兆しが見えるように取り組んでまいります。

昨年9月に引き続き、市議会2月定例会の本会議(3月6日)で「静岡マラソンの検証」、「水辺づくりのまちづくり」、「幼児教育の重要性」の3つのテーマで質問をさせていただきました。その内容につきましては、次頁をご覧ください。初めて開催された静岡マラソン(3月2日)については、当局の答弁にありますように、課題の分析と検証を行っていただき、「市民の皆さんのスポーツに親しむ機会の創出」につながるよう応援してまいりたいと考えています。また、来年4月からスタート予定の子ども・子育て支援新制度についても、子育て中の親に寄り添う相談体制などソフト面での充実に向けて、私も取り組んでいく決意を新たにしております。

同定例会では、平成26年度静岡市予算案が審議され、2,762億円の一般会計を決定しました。発達障害者の支援を拡充する「キラッと♡すくすくプロジェクト」など新規や拡充予算もあります。その中のいくつかを最終頁に掲載しております。

昨年9月の本会議質問で取り上げた消防団員の確保につきましては、国でも「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が昨年12月に施行され、消防団を「将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在」と明記し、静岡市消防局でも「消防団員確保対策検討委員会」が設置されるなど国レベル、市レベルでも本腰を入れて取り組み始めようとしています。

さて、この時期に母校でもある地元の小中学校の卒業式に出席をさせていただきました。自分の記憶がよみがえってまいりました。この子供たちが大きくなる10年後、20年後に目指すべき静岡市を描いていかなければならないと気持ちを新たに本年度の活動をスタートいたしました。

「ひびきレポート」で、本会議での質問の詳細や日ごろの活動をご紹介させていただいております。ぜひ、お読みいただき、ご意見、ご感想をお聞かせください。幸いです。

はた だ ひびき
畑田 響

ホッとニュース

平成26年4月、駿府城公園に坤(ひつじさる)櫓が完成しました。昨年10月にオランダ王国大使館よりプレゼントされたチューリップの球根で描いた「ニオくん」の花絵のお披露目。

坤櫓は、駿府城二ノ丸の南西の角に建つ櫓で、外観は、屋根が2層ですが内部は三階構造となっています。駿府城は、幾度となく天災に見舞われました。今回復元された坤櫓は寛永12年(1635)の火災の記録で消失したと考えられています。工事は平成23年12月から25年12月と2年間。高さは約14m。



徳川家康公が駿府城にて薨去(こうきょ)されたのが1616年4月。
2015年は没後400年の節目の年。

入館のご案内

開館時間 午前9時から午後4時半
(入館は4時まで)

休館日 月曜日(祝日にあたる場合は翌日)

入場料 大人 100円
子ども 50円
今昔スコop体験料 500円



質問

静岡マラソンの大会を実施しての感想と、今後の方向性について、どのように考えていますか。

答弁（生活文化局長）

当日は、市長が、記念すべき第1回大会のスターターを務め、号砲を合図に、11,000人のランナーが一斉に走り出す姿は壮観でした。沿道には、雨にも関わらず約60,000人の多くの市民の皆さんが駆けつけ熱い声援を送るなど、市内全域に感動をもたらし、本市に新たな歴史の1ページを刻む大成功の大会となりました。

今後の方向性ですが、会場での声や、ブログ、ツイッターを確認すると、石垣いちごの提供による給食や給水の充実など「良い大会だった」、「また参加したい」という大会に対して大変良い評価をいただいています。

さらに、この大会がもたらす地域経済への波及効果や、運営面での課題や分析と検証を行っています。そして、これらの検証をもとに、次の静岡マラソンが、市民の皆さんのスポーツに親しむ機会を創出するとともに、静岡のまちの賑わいと潤いをさらに促進し、MICEの推進につながるよう、より多くの市民の皆さんと盛り上げていく大会に成長させていきたいと考えています。



2月定例会 本会議での質問



質問

市長におたずねします。三つ子の魂百までと言われています。幼児期における教育や保育がその後の成長に大きな影響をもたらすため、親の働く状況や経済状況にかかわらず、質の高い幼児期の教育・保育の充実が求められています。子ども・子育て支援新制度が始まることを踏まえて、現在の幼児教育と子育て支援の重要性について、どのようにお考えでしょうか。

答弁（田辺市長）

子ども・子育て支援新制度は、これまでの幼稚園・保育園制度を利用者の目線に立ち、根本から見直し、地域資源としての施設の有効活用と費用負担の公平性を図るもので、時代の要請に応える大改革であります。この新しい時代の波に対し、私は、先見性と進取の精神をもって臨みたいと考えます。新制度を積極的に活用し、「子ども本位」の質の高い幼児期の教育・保育の環境整備を図り、静岡の子どもと子育て家庭を支える全国のモデルとなるまちづくりを進めてまいります。

質問

24年に成立した子ども・子育て関連3法では、認定こども園の改善とあわせて、地域の実情に応じた子ども・子育て支援を推進していくことが盛り込まれています。その中には、「利用者支援」を事業にあげています。静岡市として行う利用者支援の具体策はなにかお尋ねします。

答弁（子ども未来局長）

新制度の円滑な実施に向けては、子育て家庭に対する利用者支援の充実が必要です。新制度では、認定こども園や小規模保育など施設や事業が多様化し、利用の選択肢が増えることとなります。そのため、これまで各区の窓口で行ってきた利用時の相談に加え、施設や事業の利用に関する情報提供と相談支援をより早期から総合的に行う必要があると考えています。これに対する方策の1点目として、子育て支援センターの機能強化を図ります。子育て支援センターのうち、各区の拠点となる3か所に子ども未来サポーターを新

たに配置し、子育て支援施策の情報提供などを行います。2点目として、施設利用申請の手続き等を行う3区の保育児童課に、保育コーディネーターを配置し、施設利用の調整や結果的に待機児童となった場合の

フォローアップを行います。子ども未来サポーターと保育コーディネーターの両者が情報交換を密にし、連携体制を構築することで、利用者支援をより効果的に実施していきたいと考えております。



市議会本会議質問 記事（静岡新聞 3月7日付け）



地元の身近な議員を目指してまいります！！



会派同僚議員での勉強会



畑地帯総合整備事業（清水区）視察



浜松市との交流学童中学軟式野球大会



静岡マラソン 給水ボランティア